

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300740		
法人名	有限会社 メープルの里		
事業所名	グループホーム メープルの里ときわ		
所在地	〒038-1214 南津軽郡藤崎町大字常盤字三西田8-8		
自己評価作成日	令和4年8月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和4年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍においても行事や活動を通じて入居者様がリフレッシュできるよう工夫をしている。季節を感じられるようホール壁には季節を感じられる背景を飾り、また年に数回ではあるが手作りの弁当でその季節の気分を味わえるようにしたり、浴衣やはっぴを着てホールに作った出店を楽しんだり、人が密にならない場所を考え、ドライブや散策・散歩、花を見に行くなど行動している。入居者様とゆったりソファへ一緒に座り会話を楽しんだり、お部屋へ訪問し会話したり、その中から想いを感じ取り日常の生活に活かせるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームは住宅街にあり、プランターには野菜や花が植えられアットホームな雰囲気である。近くには保育園や小学校があり、コロナ禍前は交流が図られていた。コロナ禍でも、入居者が閉じこもらないように、またリフレッシュできるように近所を散歩したり、グループホーム内で行事を行う等、入居者が楽しめるようにしている。職員は入居者に対して声掛け等、優しく対応しており、室内は明るく季節の装飾がされ居心地よいグループホームである。近くに協力医があり、夜間、緊急時にはいつでも対応してくれる体制があるため、入居者、家族が安心して暮らせる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍の為地域とのふれあいはありませんでしたが、挨拶から始まり笑顔で接し、その人らしい生活を安心して暮らせるようスタッフで支援している。	玄関、ホール、事務所に理念が掲示され皆で理念を共有し、意識しながら仕事に取り組んでいる。新人職員にも理念の意義を説明し理解してもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様が施設に入居してからも、今までと大きな変化なく過ごせるよう、馴染みの美容院や商店へ行ける様支援している。	コロナ禍で地域的美容院、商店等へ行くことは自粛している。以前は近くの保育園児が来て、一緒にプランターに花を植えたり、中学校の体験学習を受け入れたり交流を図っていた。今は中学校の生徒から手紙が届き交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通して町内会の人や近隣の保育園、中学校との交流をしていたが、コロナ感染防止の為出来なくなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止の為、2ヶ月に1回の運営推進会議は資料の配布とそれに対する意見等を聞き、行政等とご家族様へ分かる様に添付している。またその意見からサービスへ反映させている。	コロナ禍のため、今は2ヶ月に1回書面での運営推進会議となっている。家族、地域包括支援センター、介護保険課、近所の人、系列のグループホームに資料を送付し、グループホームの状況、入退去の状況、入居者の普段の様子の写真を添えて送付し、そこで意見をもらい、意見は皆で話し合い報告書にまとめ、次回の運営推進会議で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者や他の職員ともいつでも連絡を取れるようにしており、困りごとを相談したり、聞ける関係を継続している。	市担当者や地域包括支援センターには、必要時、電話で相談している。グループホームの空き状況を報告したり、生活保護、後見人、虐待等、困ったことはいつでも相談し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通じて身体拘束の意味を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、不審者対策で行っており、ご家族様には説明をし、了承を頂いている。	身体拘束適正化委員会があり、2ヶ月に1回は委員会が開催され身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、年2回、身体拘束研修会を開催し、身体拘束をしないケアについて、職員が正しく理解できるようにしている。身体拘束をしないために、ベッドの下にセンサーを取り付けている入居者はいるが、家族に了解をもらい行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について勉強会等で学習し周知徹底している。入居者様の尊厳を守り、声掛けや言葉使いについても職員間で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様へは説明をし必要性をお話し理解を求めているも、「まだいい」や「お金がかかる」と消極的でなかなか進まない現状がある。その時になりやっと動いて下さるような状態である。今後も説明を続けていくようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語を使わず、分かりやすい説明を心掛けている。説明の後や後日、ご家族様へ分からなかった所はないかこちらかわお声を掛け、再度お伝えするようになっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は説明会を開く等し顔を合わせて話しをするようにしていたが、コロナ過において、何か月も前より今後の方向性を運英会議の資料やお知らせにて早めにわかるようにしている。また、来園時には都度お話しするように努めている。	入居者からは日々の生活の中で会話から、家族からは支払いに来た時等に意見を聞くようにしている。そこで出された意見は、その都度話し合い改善に向けている。	契約時のみならず、年1回でも意見や要望が外部に表せる機会があることを周知することで、意見等が引き出せ、運営に反映させることができることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も含め意見は意見箱に入れており、意見に対して口頭での説明は受けている。実際反映されるまで時間を要するものがある。	会議の時に職員から意見を聞く機会があり、それを話し合い業務改善につなげている。必要時は会議以外でも聞くようにし、その都度話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	少しずつではあるが以前より給料に手当てが増え上がって来た事で職員のやりがいは繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修は毎月各ユニットから一人ずつ担当を決め、職員が学びたい事を自分たちで考えて進めている。事業所外研修は経験年数等にてそれに合った研修を受講できるようにしているもコロナ過において受け付けていなかったが、リモートで出来る環境が少しずつ整ってきている為今後はもう少し学ぶ機会を持てると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム間での意見交換会を2か月に1回集まって話し合いを持っていたがコロナ過において出来なくなった期間があり、FAXで情報をやり取りしたり、今年は初めてリモートで行う事が出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や思い等を伺い少しでも安心できるよう傾聴し、信頼関係を築ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には介護をして来た事への労いと、何に困っていたのか伺えるよう話をよく聴き受け止め、共感する事から始まり、信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様の想いを確認し、状況を踏まえ、本人とご家族様の希望や実際の状況を合わせて必要な支援が何かを話し合えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	色々な話を聞いたり、教えて頂きながら入居者様と一緒にいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や来園された時に日頃の様子などをお伝えし、ご家族様の不安を解消につながるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様が許可される知人等の面会は受けている。コロナ過の為今は玄関のドア越しにて顔を見ながら会話ができる様にして頂くか、天気の良い日は外へ出て距離を取り面会して頂いている。	コロナ禍のため面会制限はあるが、知人が玄関でドア越しに面会に来たり、地域の病院に行ったときには、地域の人が声をかけてくれたり、馴染みの床屋が来てくれるなど、感染対策をし、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士関りが持てる様にテーブル席を決めている。また、口調が強く他者様に不快を与えてしまいそうな入居者様は見守りをしトラブルにならない様しえんしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出先で会った時などは入院中の経過や現在の様子を伺い、ご家族様の心情を聞くように心掛けてい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室へ伺ったりホールへにて過ごしている時など、他者様がいない環境の中お話を聞くようにしている。また、会話にて困難な場合には生活歴やご家族様にお話を聞き思いに添える様に努めている。	入居者同士の会話や日常の会話から意向を聞いたり、それが困難な入居者には日々の表情や何気ない会話から思いや意向を引き出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書やご家族様、ソーシャルワーカーなど関わっていたサービスの人たちに話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何ができるか、どう支援すると良いかの見極めをし、本人と相談しながら家事手伝いやパズル、計算式など負担にならない様、楽しみながらできる様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様に一人担当者がつき、その人を中心とした他職員から情報を収集し、それをもとに話し合いを持ち介護計画を作成している。またご家族様には来園時やお手紙にて要望等を聞くように心掛けている。	個々の入居者に担当職員がおり、家族、本人の意向に沿いながら、他職員からも情報を収集し、それをもとにカンファレンスを行い、介護計画を作成している。日々の介護記録に支援経過を記入し評価しており、見直しが必要な時はその都度話し合い、計画書を変更する等している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきに関して記録に記入が少ないながらも、毎日の申し送り時等にて情報を共有する事が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じ、即対応できるよう心掛けています。お寺へ行き和尚様の話を聞きに行く、墓参り、気分転換が図れるよう個別に外出を行うなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居に関しご家族様へ説明し、ご本人様、ご家族様が抱えている事を伺いながら病院受診や他のサービスの事も含め、地域包括支援センター職員と一緒に行動している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望を伺いどの病院が良いか話し合い、今まで通っていたかかりつけ医やホームの協力医である病院へ受診できるよう支援している。夜間や緊急時には電話で指示を受け受診できる体制が整っている。	本人、家族の希望に沿い話し合いをし、かかりつけ医を受診できるようにしている。近くに協力医があり、そちらを受診できるようになっており、夜間や緊急時はいつでも受診できる体制もできている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師は配置されていないが、協力病院の看護師には受診時や突発時にはいつでも相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーやご家族様に随時状態等を伺い、今の状態から退院時のADLをどの状態までなら受け入れ可能か等を話し合い、病院で出来る事、ホームでできる事を逐一話し合い早期退院が出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来る事を説明し、ご家族様がどうしたいのか、どうする事が適切なのかを話している。また他の施設についても説明する事で、ご家族様が情報を得、家族様が中心となり様々な決定を出来る様支援している。	グループホームで看取りは行っていないが、重度化になった際は、できることできないことを家族、本人に説明し方針を共有し、他施設への申し込みをしたりして、家族、本人が不安なく過ごせるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期ではあるが時間がある時には心肺蘇生法をみんなで再確認し、緊急時には即対応できる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上、火災時の避難訓練を行い確認している。また非常災害対策計画書を作成し、入居者様を2階へ移動する手段として、簡易担架やおんぶ紐の準備をしている。緊急連絡網には隣人にも連絡が行くようになっている。	年2回、日中、夜間想定で避難訓練、水害訓練を行っている。緊急連絡網には隣家にも連絡が行くようになっており、協力体制ができています。備蓄、備品の用意もされています。	備蓄、備品の用意はされているが、実際使えるかどうか、使用方法等の確認をすることで、必要時に職員も不安なく対応出来る事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いを受容した会話を心掛けている。プライバシーに関する内容の会話は他者様に聞こえない様な対応を心掛けている。時にはジェスチャーを用いる事もある。	職員は声のトーンに配慮し、プライバシーを損ねない声掛けを心掛けながら日々のケアをしている。配慮されていないような言動が職員にあった場合は、管理者からその都度注意を促すことがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話する際には「どうですか？」など言葉の最後に「か」を付けて話をするよう心掛ける事で自己決定に繋がるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話時や行動を観察しながら本人が何をしたいのかを察し対応できる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ハンガーポールに服を掛け、好みのものを手にして選べるようにしている人や、衣装ケースから出しどれが良いか選んで頂くようにしている。男性の髭剃りが不十分な為仕上げをする事で喜ばれる様子を見る事が出来る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人が食べたい物を伺い提供している。その時々採れる野菜を使い味付けや調理方法を聞きおかず作りを一緒に行っている。食器・お盆拭きを毎日の日課に取り入れている。	食事は全部、法人の給食センターから運ばれているが、入居者の誕生日には食べたいものを聞き、それを提供するようにしている。月1回の給食会議で、メニュー、味付け等について話し合わせ、食事が楽しめるようにしている。食器、おぼん拭きを毎日一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、必要に応じ水分量が分かる様にしている。給食センターの管理栄養士と相談しながら必要な栄養が不足していないか等、また主治医とも相談し体重減に関し相談できている。今までの習慣を継続できるようにおやつ時にはコーヒーを飲んでいる人も居る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや一部介助にてうがいができる様にしている。またうがいが困難な入居者様は食後に緑茶を飲んで頂いたり、イソジンで口の中をきれいに保てる様に拭いている。緑茶を飲んでも良いか調剤薬局の薬剤師に確認している。(内服薬の関係から)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居後の排泄状況を把握し、排泄パターンや回数・量をチェックして、トイレで自力で排泄できるようにしている。排泄チェック表を見て声掛けし、少しでも本人に悲しい思いや嫌な感情が残らない様に支援している。	排泄チェック表を用いて個々の排泄状況の把握に努め、その入居者に合わせてトイレ誘導する等して排泄の自立に向けて支援している。便秘気味の入居者には下剤に頼らないように、体操や牛乳、水分を多めに摂らせる等の工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時には牛乳を提供し、排便の状態によりおやつ時に牛乳を再提供したり、運動ができるように支援している。その人により下剤の種類を検討し提供や提供するタイミングを話し合い決めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	コロナの事もあり、今は一日に2人ずつの入浴となり、のんびりとする事が出来ている。入る順番に関しては浴槽に入れる人、シャワー浴の人とし、週に2回の入浴ができる様支援して。受診のある日には午後になる事もある。	1日2人ずつの入浴で毎日入浴を行い、週2回は入浴できるようになっている。その人の受診に合わせて、午後の入浴にしたり、入浴日を変更したり柔軟な対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後声掛けや誘導し休息できるように支援している。夜はその人に合わせた就寝時間とし、テレビを見ながらのんびりと時間を過ごして頂くなど、タイミングを見計らい誘導する事でスムーズに入眠出来る事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を確認しながらその人がどのような薬を服用しているか把握に努めている。また薬が変更になった場合には状態変化に留意し観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭きや洗濯物などを干す量む。プランターの花に水やりやミニトマトの収穫。外へ出て日光に当たる。近隣を散歩やドライブ。好きな時代劇や歌を聴ける様支援している。夕食後他者様たちが休みに行った後、職員と二人で話をしたりテレビを見て過ごす事を楽しみにしている人も居る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事に取り入れたり、好天気時には散歩など外出する機会を持つようにしている。人が密にならない場所を考え、可能な範囲で支援している。ご家族様が面会へ来た際には園庭へ出て外での面会も行っている。	コロナ禍で外出の行事は行っていないが、天気の良い日は近所を散歩したり、通院の帰りに町内を車で1周したり、できる限りコロナ禍でも閉じこもらないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる入居者様は幾らか財布に入れて自己管理している。買い物へ行った時会計時には財布を渡し支払い出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとの要望はすぐに対応している。誕生日に向けバースデーカードを送り、誕生日までにはご家族様から返送して頂き、カードが来る事を楽しみにするよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁には季節を感じられるよう装飾したり、窓からの日差しが強い場所には光が漏れているところを遮断するなどしている。その日の気温や湿度を確認しながら窓を開け風を入れる、エアコンを調整し不快感を減らせるようにしている。枕や掛け物を準備しいつでもホールソファで横になれるようにしている。	ホールには季節を感じられるように季節に合った装飾がされ、居室にはパネルヒーター、廊下にはエアコンが設置され、室温等を確認しながら空調を調整し、また不快のないようにホールのテレビの音に配慮し、共有空間は居心地よく過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お話し好きの入居者様を隣り合わせにしたり、ソファで好きなように過ごせるよう、見守りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆ど使い慣れた物を持ってこられる入居者様は少ないが、ここで生活して来た事からの本人や家族の写真を飾り、写真を見ながら会話をする事で、思い出す機会を持てるよう支援している。	入居前に入居者、家族と話し合い、使い慣れたものが持ち込まれている。また、家族の写真等が飾られ入居者が安心して落ち着いて過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋だと分かるように名前や目印をつけている。トイレでは便座を上げて置きスムーズに便器へ向かえる様にしたり、トイレトペーパーを使用分カットし見える所へ置くなどし、困惑なく排泄できる様にしている。		